

卒業おめでとう！ 第43期生の前途に幸あれ！！

明日は、いよいよ卒業式。私と皆さんとの付き合いは、わずか1年間でしたが、たくさんの思い出をもらいました。「ありがとう！」一人一人と面談をさせてもらった時も、進路決定に向けての面接練習でも、皆さんからは口々に「学校が楽しい！」「八児中学校が好き！」という言葉が返ってきました。

その陰には、これまで関わって来られた多くの先生方の努力があったのだと、改めて感謝しています。

まず、学年主任として、大きな愛で皆さんを包んでくださった先生。長い教師人生の中でも、めずらしく1年生から持ち上がりで3年間担任し、情熱を注がれた先生。若さとバイタリティにあふれ、新規採用から3年間、皆さんとともに成長してこられた先生。八児学級の担任として、一人一人と細やかに接し、力を付けさせることに尽力された先生。教務主任という忙しい仕事をこなしながら、教科指導や部活動にも行動力を示された先生。緻密な計画を立て、丁寧な「進路通信」を出して皆さんを陰から日向から支えてくださった先生。そして、保健室から、学年だけでなく全校生徒の健康・安全に気を配ってくださった先生。他にも3年間たくさんの先生方に関わっていただいて、皆さんの今がありますね。

あなたが一番に影響を受けたのは・・・？ どの先生ですか？

「少年よ 大志を抱け」

[Boys, be ambitious.]

若者は大きな志をもつことによって、大きな夢を達成できる。
という励ましの言葉。

現北海道大学にあたる札幌農学校の初代教頭であったウィリアム・スミス・クラークが学生たちに残したとされる名言の一部。



「少年老い易く 学成り難し、一寸の光陰 軽んずべからず」



人は、若いうちは先が長いものだと思っているが、すぐに歳をとってしまうもの。反して、学問は容易に修めがたいものであるから、若いうちから時間を惜しんで勉学に励むべきだということ。
朱熹の詩『偶成』に「少年老い易く学成り難し、一寸の光陰軽んずべからず、未だ覚めず池塘春草の夢階前の梧葉すでに秋声」とあるのに基づく。

「為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の 為さぬなりけり」

どんなことでも強い意志を持ってやれば必ず成就するということで、やる気の大切さを説いたことば。

江戸時代後期、米沢藩主の上杉鷹山が家臣に「為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり」という歌を教訓として詠み与えたという話は有名。



保護者の皆様へ お子様のご卒業「おめでとうございます」

明日の「卒業証書授与式」には、是非、御参列いただき、43期卒業生全員を励ましていただければと思います。「義務教育は、保護者にあり、子どもには、ただ教育を受ける権利がある」9年間、教育を受けさせる義務を全うされた皆様に、改めて敬意を表しますとともに、義務教育最後の学校として八児中学校を選んでいただいたことに、教職員一同感謝いたします。「ありがとうございました」